

二九

勅授

丙
三〇七四

立案 昭和七年四月十日

決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故陸軍主計監遠藤慎司位階
追陞、件

昭和七年四月十日

昭和七年四月十日
臺帳記入四月十日
官報報告済

宮内省

裏面白紙



故陸軍主計監遠藤慎司位階追

陞ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和七年四月十二日

内閣總理大臣犬養毅



内閣

陸俊第一四三號

案起

昭和七年四月十二日

裁可

昭和七年四月十二日

施行

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

發

内閣書記官長

内閣書記官

故陸軍主計監從四位勳二等功三級遠藤
慎司、別紙内務陸軍兩大臣奏請、通
功績顯著ナル者ニ候處本月七日死去
、趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通位階追陞、
件上奏相成然ルヘシ

内閣

故陸軍主計監從四位勳二等功三級遠藤慎司

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

從四位勳二等功三級遠藤慎司

敘正四位

四月七日付

故陸軍主計監從四位勲二等功三級 遠藤慎司
右者別紙功績書ノ通我カ邦家ニ效セシ功績
寔ニ偉大ナル者ニ有之候處四月七日依病死
候ニ付此際特別ノ思召ヲ以テ位一級ヲ進メ正四
位ニ叙セラレ度
謹テ奏ス

昭和七年四月十二日

内務大臣 鈴木喜三郎



陸軍大臣 荒木貞夫



陸 軍

功績書

陸軍主計監從四位勳三等功三級遠藤慎司

右者明治十年四月陸軍省十三等(權小録)出仕ヲ命
セラレテヨリ以來累進シテ現官ヲ以テ退職迄三
十四年ノ久シキニ亘リ此ノ間陸軍大學校御用掛
陸軍經理學校教官、陸軍大學校教官、陸軍經理學校
長第二師團監督部長、陸軍省主計課長、韓國駐劄軍
經理部長等ノ要職ニ歷任シ恪勤精勵克ク其ノ職
責ヲ全フシ殊ニ曰清戰役ニハ大本營部員トシテ
又臺灣兵站監督部長トシテ更ニ曰露戰役ニハ遼
東守備軍經理部長トシテ戰役ニ從事シ其ノ功績
定ニ顯著タリ就中本人ハ長ク獨逸國ニ留學シ同
國陸軍ノ各般ニ亘リ其ノ精萃ヲ極メテ之ヲ我カ

陸軍

帝國陸軍ノ諸制度ニ及ホシ且又我カ陸軍戰術ノ
導師タル「メツケル」氏ノ應聘セララルマ創學ノ陸
軍大學校ニ於テ明治十八年以降六箇年ニ亘リ獨
逸戰術ニ關スル豊富ナル學識ト卓越セル語學ノ
妙ヲ以テ「メツケル」氏ノ講述ト共ニ獨逸戰術ノ真
諦ヲ教ヘ未タ幼稚ナル帝國陸軍戰術ノ開拓ニ獻
身的ノ努力ヲ傾注シ以テ國軍戰術ヲシテ克ク其
ノ基礎ヲ凝成スルニ成功セシメタルハ陸軍史ヲ
通シテ汝スルコトヲ得サル偉大ナル事績ト云フ
可ク尚本人ノ陸軍戰術ノ進歩ニ貢獻シタルハ當
ニ陸軍大學校ニ於ケル教育ノ至ニ止ルニ非スシ
テ或ハ召集高級指揮官ニ「メツケル」氏ト共ニ獨逸
戰術ヲ教育シ、又數次ノ參謀演習旅行ニ臨ミテ實

際ニ之カ運用ヲ教授シ或ハ野外要務令其ノ他ノ
勤務令制定ニ參劃スル等眞ニ建設陸軍ノ戰術方
面ニ於ケル功績ハ極メテ大ナルモノニシテ單ニ
右戰術ノミニ止ラス陸軍諸制度ノ創設ニ其ノ歐
洲各國ニ於テ極メタル精萃蓋莫ヲ至シタル功績
又大ナリ其ノ他現制陸軍經理學校ノ前身タル陸
軍軍吏學舎ノ創設及監督補充制度ノ創始ノ功勞
者ニシテ明治十七年歐洲ヨリ歸朝スルヤ經理官
養成ノ爲軍吏學舎ノ創設ヲ建議シ翌々年之カ制
定ヲ見、次テ再ヒ歐洲ニ出張スルヤ歐洲列國ノ經
理官制度ヲ研究シ監督補充制度トシテ監督學生
制度ノ創立ヲ提案シテ明治二十四年之カ設置ヲ
見、茲ニ經理官ノ補充教育制度ノ完成ヲ見ルニ至

リタルモノナリ是レ一ニ本人多年ノ研鑽ト不斷
ノ努力ニ依ルモノト謂ヒ得ヘク斯クシテ明治四
十三年六月豫備役被仰付迄終始一貫軍務ニ奉仕
シ郷ニ入リテハ陸軍ノ先輩トシテ帝國在郷軍人
會並ニ陸軍主計團ノ指導誘掖ニ努メ又大正四年
六月選ハレテ和歌山市長ニ就任同十二年六月ニ
至ル滿八年ノ久シキニ亘リ公共ノ職ニ至誠ヲ致
シ市長解任後モ老齡顧ミルナク一竟公共團體ノ
健全ナル發達ニ竟ヲ致シ今日ニ及ヒタル功績實
ニ顯著ナリ

市長當時ノ功績

大正四年六月十七日衆望ヲ擔ツテ和歌山市長ニ就任シ同十二年六月退職ニ至ル迄前後八年ノ長キニ及び其間或ハ市上水道ノ敷設、共同墓地、公設市場、等ヲ設ケテ市民ノ福祉増進ヲ圖リ又市營住宅ヲ建築シテ住宅ノ緩和ニ力メ尙職業紹介所、簡易食堂等ノ設置ヲナシ其他和歌山公園並ニ諸學校ノ設備改善ヲナシ終始一貫公共並ニ公益事業ニ盡瘁シタル功績洵ニ顯著ナルモノアリ

履歷書

陸軍主計監從四位勲二等功三級遠藤慎司

明治十年四月

陸軍省十三等(權小録)出仕

嘉永六年三月廿日生

明治十二年七月七日

陸軍會計軍吏補第五局第四課出仕

全 年十月廿日

會計局計算課之僚

全 年十月廿二日

近衛歩兵第一聯隊第二大隊計官

全 十三年三月六日

叙正八位

全 十四年二月十八日

近衛騎兵中隊計官

全 年五月三日

會計局課僚

全 年五月十日

帝國留學波印付六月五日内地出發

全 十二年八月廿五日

會計二等軍吏

全 年九月廿九日

叙從七位

全 十七年四月十九日

叙朝

明治十七年七月廿日

大山陸軍郷歐洲、御用中隨行

全 十八年一月廿五日

叙朝

全 年二月三日

會計局課僚

全 年八月六日

陸軍大學校御用掛兼勤

全 十九年三月四日

會計局副課員

全 年四月十六日

戰時衛生事務改正審査委員

全 年八月廿五日

兼陸軍之吏其子舎教官

全 廿年一月廿五日

改正兵語字書審査委員

全 年四月廿七日

陸軍一等軍吏

全 年四月廿八日

陸軍之吏其子舎教官

全 廿二年一月十二日

參謀旅行トシテ九州地方へ派遣

全 年三月十日

叙着

全 年三月十五日

陸軍監督補

今世二年七月十五日 叙正七位

今 年九月十九日 御用有之歐洲、派遣

今世三年七月廿六日 飯朝

今 年十月四日 陸軍經理監子校教官

今世四年七月十七日 會計局御用掛兼勤ヲ命ス

今世五年二月十三日 參謀官參謀旅行施行ニ付將校演習

今世六年四月四日 旅行條例第六條第二項ニ依リ參列ヲ命ス

今 年十月廿四日 陸軍經理監子校三等監督教官心得

今 年十月廿一日 陸軍三等監督 今日陸軍經理監子校教官

今 年十月十六日 兼陸軍大監子校教官

今世七年六月六日 叙從六位

今 年十月十三日 野戰監督長官部員被仰付

御用有之第二軍ト共ニ海外、被差遣

明治廿八年二月廿八日 兵站線路視察トシテ清國蓋平及海城、被差遣

今 年五月十六日 陸軍二等監督

今 年五月十七日 台灣、為實視被差遣

今 年七月一日 中央會計部長心得ヲ命ス(台灣總督府)

今 年八月八日 台灣兵站監督部長被仰付

今 年九月廿四日 叙正六位

今世九年四月廿四日 補陸軍經理監子校長

今世十年四月六日 御用有之英吉利、佛蘭西、和蘭陀、三國

所領印度地方殖民地、被差遣

今世十一年十一月二日 補第二師團監督部長

今世十二年十一月廿五日 任陸軍一等監督

今世十三年二月十日 叙從五位

今世十四年二月一日 補陸軍經理監子校長

今世六年九月一日 補陸軍省經理局主計課長

今 年十一月一日 陸軍一等主計正ト改稱

今 年十二月七日 陸軍省所屬事務政府委員被仰付

今世七年三月十九日 右 同

今 年九月七日 遼東守備軍經理部長被仰付

今 年九月十二日 陸軍主計監

今 年九月廿六日 外征、為宇品港出帆

今 年九月廿九日 清國柳樹屯上陸

今 年十月廿四日 叙正五位

今世八年一月十四日 韓國駐劄軍經理部長被仰付今月廿四日

今 年十月十六日 青泥窪出帆二月一日京城着

今世九年四月一日 平和詔勅發布

明治三十七八年戰役、功依リ叙功三級金鷄勳章

並勳二等旭日重光章

明治九年八月十五日 補韓國駐劄軍經理部長

今 年八月十二日 休職

今 年八月廿九日 豫備役

今 年八月十日 叙從四位

大正三年四月一日 後備役

今 年六月十七日 和歌山市長ニ就任

今 年四月一日 退 役

今 年六月十六日 和歌山市長任期滿了今日再ニ就任

今 年六月 和歌山市長解任

(位第三五一號)

叙位ノ件進達

昭和七年四月十二日

内務大臣

鈴木喜三郎



陸軍大臣

荒木貞夫



内閣總理大臣 犬養毅殿

故陸軍主計監遠藤慎司位階追陞ノ件
右進達ス

陸

軍



立案 昭和七年四月十一日
決裁 昭和七年四月十一日

賞章



立案

故陸軍主計監選任勲三等功三級遠藤慎司
特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

選任勲二等功三級 遠藤慎司

敘正四位

宮内省

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和七年四月十一日

宗秩寮總裁

陸軍大臣 荒木貞夫 印



三四五

一故陸軍主計監位重三等功高遠藤藤司

右位記並辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

宗秩寮總裁子前仙石政敬

陸軍大臣

宮内省

裏面白紙